

# 令和4年度 学校評価 自己評価書

あま市立甚目寺南中学校

## 1 総括

### (1) 教育目標（学校経営案より）

校 訓	真 真理を求め続ける生徒・教師	め ざ す 姿	・自ら課題を見つけ、自ら考え、表現できる生徒・教師
	善 礼儀正しい生徒・教師		・心身を磨き、鍛える生徒・教師 ・場をわきまえ正しい判断のできる生徒・教師
	美 感性豊かな生徒・教師		・自分を大切にし、人も大切にできる生徒・教師 ・正しいこと、美しいものに感動できる生徒・教師

### (2) 本年度の重点努力目標

- ア 生徒一人一人の「よさ」に着目し、伸ばしていく学校・学級づくり
- ・生徒が自己肯定感や自己有用感を高めることができ、自信をもって生活できるよう、生徒一人一人を認め、ほめることを意識した教育活動を展開する。
  - ・教師は常に人権意識をもち、生徒一人一人に対して丁寧に対応する。
- イ 自ら学びに向かい、課題を解決し、「分かった」「できた」と実感できる魅力ある授業の実践
- ・基礎的な学習内容の定着を図るとともに、授業に対話的な場面を取り入れ、主体的・協働的に学び、深く考えることを通して、「わかった」「できた」と実感できる授業を展開する。
  - ・特別な支援を要する生徒一人一人のニーズを的確に把握し、適切な指導及び必要な支援を行う。
  - ・ICT機器の積極的な活用により、子どもたち一人一人を取り残すことなく、また資質能力を向上させるよう努める。
  - ・子どもの最大の教育環境は教員であることを教員が互いに意識して、授業研究や研修等に真摯に取り組む、自身の資質向上に努める。
- ウ 心豊かな生徒の育成
- ・日常生活の様々な場面について考えさせたり、外部講師による講話を通して学ばせたりすることにより、命を大切にし、他人を思いやり、人権を尊重する心を養う。
  - ・道徳の授業や全校及び学年での集会活動を核に、善悪の判断力や道徳心を身につけさせ、規範意識の醸成、モラル向上を意識して教育活動に当たる。
  - ・体験的な学習を重視し、個の可能性の伸長に努め、生涯学習の基礎的能力や態度を培い、社会の変化に対応し、主体的に生きていくための力の育成を図る。
  - ・発達段階に応じた心の教育やQ-U調査、クレペリン検査等を活用して温かい人間関係づくりに努める。
- エ 心を育てる環境づくり
- ・教師が日常的に「温かい語りかけ」を意識し、学校中に温かい心が通い合う雰囲気作りに努める。
  - ・教師が丁寧な言葉づかいを心がけ、校内全体に、正しい言語環境を構築する。
  - ・トイレスリッパの整頓、下足箱・ロッカー内の整頓、清掃への熱心な取り組みなど、教師が垂範しながら環境美化を推進し、美しく整った環境下で教育活動が展開されるように努める。
  - ・ユニバーサルデザインを意識した環境づくりに努める。
- オ 家庭・地域・校種間連携の推進
- ・家庭との連携を密にし、生徒を多面的にとらえ、生徒の健全育成を目指す。
  - ・学年通信や各種通信、ホームページ等により、学校から家庭や地域へ積極的に情報発信する。
  - ・コミュニティスクールを積極的に活用して、地域及び関係機関等の教育力を生かした「開かれた学校づくり」の具現化を進める。
  - ・本校の教育活動をより充実させるために、学校評価を実施し、その結果を有効活用しながら、学校運営に生かす。
  - ・義務教育9年間を見通し、学習・生活面での指導や支援をより充実させるために、近隣小学校との相互理解を図るための交流活動を行う。
- カ 多忙化解消のための業務改善
- ・行事の精選や、諸会議の勤務時間内終了、ICT機器の効果的導入により、教職員の業務負担軽減に努める。
  - ・定時退校日を月1回以上設定する。
  - ・働き方改革を進めることは、学校教育の質の向上につながることを、保護者や地域の方々に理解してもらえよう働きかける。

## 2 自己評価の実施体制

- (1) 調査時期 令和4年11月11日(金)～12月1日(木)
- (2) 調査項目 別紙アンケート参照
- (3) 調査対象 有効回答者数/対象者数
  - ・生徒 518名/全562名
  - ・学校運営協議会委員 9名/全10名(教職員除く)
  - ・保護者 417名/全503名
  - ・教職員 30名/全31名
  - 計974名

## 3 調査結果

別紙アンケート結果参照

## 4 考察

- (1) 全体を通して肯定的な回答をした生徒が昨年度よりも増加している。ここ数年、学校が落ち着いており、新型コロナウイルス感染症予防の中、教師、保護者、生徒が一丸となって取り組んでいる結果と考えられる。今後も今まで以上に生徒の気持ちに寄り添いながら対応していく大切さを感じる。
- (2) 今年度の重点目標である「生徒一人一人のよさに着目し、伸ばしていく学校・学級づくり」については、「教師はよりよい学級づくりに努めている」といった質問に対して生徒・保護者・教師ともに肯定的な回答をした割合が昨年度と比べると増加している。今後も、悩みが複雑化している生徒や、不登校生徒一人一人に対して、居場所のある学級づくりを行っていきたい。
- (3) 教職員の業務縮小化のために、ICT機器を有効活用した。会議の資料をペーパーレス化し、電子データで共有し、資料を印刷したり配付したりする時間を削減した。また、教職員が好きなタイミングで資料をサーバーからアップすることができるので、会議前に目を通すことができた。おかげで、スムーズな進行が可能になり、会議の時間を有効に使うことができた。
- (4) 学校運営協議会委員からは、「生徒たちが楽しそうに学校生活を送っている」や「生徒が学校生活を通して日々成長している」と肯定的な回答を多く得ることができた。また、登下校時に危険な場面を見かけるといった意見も出された。こういった成果と課題を検討し、よりよい教育活動に向けて、次年度の計画を考えていきたい。

## 5 成果と課題

- (1) 学校運営
  - 「先生は、生徒とともに諸活動に取り組んでいる」に対して「とてもそう思う」と強い肯定的な回答をした保護者の割合が、昨年度と比べると増加する回答結果となっている。これは、新型コロナウイルス感染症対策により、例年とは大きく違った対応をしなければならない中、様々な行事を何とか開催できるように取り組んできた成果の表れだと考える。しかし、生徒や教師の肯定的な回答が減少しているのは、学校の様々な行事や業務について、社会状況を踏まえた教育的意義と教職員の負担感を考慮して、「廃止・縮小」が大きく影響していることによるものではないかと思われる。組織としてより有効に機能する教職員集団を目指して、指導力のさらなる向上や学校経営に関する円滑な情報共有のできる協力体制の構築を図っていきたい。
- (2) 学習・部活動
  - 約8割以上の生徒が学校の授業に対して「意欲的に取り組んでいる」と肯定的な回答をしている。ICT機器の積極的な活用により、生徒達の資質能力向上に努めたことが要因の1つであると考えられる。しかし、「生徒が発言・活動する授業の工夫」について、半数以上の教師が、「あまりそう思わない」と回答している。新学習指導要領が導入されて2年目を迎える。質の高い授業ができるかどうかについては、何がよい授業か、正解は1つだけではないことを前提に、「個別最適な学び」や「協働的・探究的な学び」をどこまで充実できるかを、客観的に見る必要がある。その機会として校内研究や研修会などを実施し、教師個人の指導力だけでなく、集団としてもレベルアップを図っていきたい。部活動については、以前のような練習時間を確保することが困難であるため、教師からの肯定的な意見は少なかった。しかし、多くの生徒が「部活動に意欲的に参加している」と答えている。
- (3) 生徒指導
  - 「先生は、生徒の悩みや相談をしっかりと聞いている」に対して「そう思う」と肯定的な回答をした保護者・生徒・教師の割合が、昨年度と同様、8割以上を超える回答結果となっている。これは、教師が日常的に「温かい語りかけ」を意識し、一人一人に対して、丁寧に対応している成果であると考えられる。そして、生徒たちは全体的に落ち着いた雰囲気、学校生活を送ることができている。今後も生徒の自治能力の向上を支援しつつ、家庭と学校が連携、協力して生徒の規範意識を高めていきたい。
- (4) 環境
  - 「先生は、より美しい学校にするよう生徒とともに取り組んでいる」に対して、肯定的な回答をした

保護者が、8割以上の回答結果となっている。トイレのスリッパや下足箱の靴の整頓などを生徒と教師が協働し、環境美化を推進した結果であると考え。また、体育館のトイレの改修やPTAによる教室の壁塗装が行われるなど、美しく整った環境下で教育活動が展開されるよう努めている成果である。

#### (5) 連絡

- 「先生は、家庭への連絡を積極的に行っている」に対して「そう思う」と肯定的な回答をした保護者・生徒・教員の割合が、昨年度と同様、8割程度の回答結果となっている。ペーパーレス化に伴い、学校からのお知らせをホームページに掲載したり、絆メールで配信したりすることが増えてきた結果の表れだと考える。一方、保護者の学校評価の記述の中から、紙媒体で配付されるより、SNSを利用して家庭連絡をしてほしいといった要望があり、出欠席の報告をメールで行うシステムを小学校が取り入れている現状も踏まえて、SNSのよさを活かした家庭との連携を考えていきたい。

### 6 改善策

#### (1) 学校組織

安心して話をしたくなる雰囲気職員室を今後ともつくっていききたい。教員が強いチーム意識をもって仕事をしている学校は、活気に満ち、明るく風通しのよい職場環境になる。そして、OJTもより効果が上がると考えられる。職員室に、安心して話をしたくなる雰囲気があれば、「学び合う」「認め合う」「響き合う」日常的なOJTが推進され、機能すると考えられる。日頃の人間関係を大切にしたい組織づくりを行い、困ったときに声を出して話せる職場づくりを重視していききたい。

#### (2) 学年、学級経営

生徒が「学校は楽しいところ」と感じる学年、学級経営を行っていききたい。それには、学校に来たら「分かることが増えた」「できることが増えた」と実感できる魅力ある授業づくりに努めていく必要がある。また、生徒一人一人が大切にされ、生徒が自分のよさを見だし、それを伸ばし、自己有用感や自己実現の喜びが実感できるようにする具体的な取組をしていきたい。そのために、学級担任が、日頃から温かく生徒に寄り添い、生徒の気持ちを共感的に理解する中で、生徒との信頼関係及び生徒相互の好ましい人間関係を育てていきたい。

#### (3) 特別支援

特別支援教育は、教育活動の原点である。個に応じた指導のために、個をしっかりと見つめ、個に応じた支援計画・指導計画を立てることが重要である。そのために、特別支援学級に関わる職員の情報交換が必要不可欠である。今年度から特別支援学級担当教師とスクーサポーターが情報共有しやすいように職員室の机の配置を変えた。日常の何気ない会話から、多くの目で見守る支援を確立することができた。また、今後とも、家庭における状況の把握や、学校での学習内容の報告など、定期的にケース会議を行い、外部機関とも積極的に連携を図っていききたい。

#### (4) 校務分掌

円滑な教育活動を進めるため、学校の職員が役割分担し、相互に連携しながら活動するのが校務分掌である。そのために、経験豊富な教員と経験の少ない教員、本校における勤務年数などを考慮してペアを組むなどの工夫をして、校務分掌を決めていききたい。また、負担感・多忙感の緩和に向けて、お互いに声を掛け合うなど、個人の業務や状況を理解し、フォローし合う雰囲気をつくっていききたい。

#### (5) 研修活動

教職員が校内研修に対して、負担や多忙を感じていることから、限られた時間の中で効率的・効果的にすすめていくことが重要であると考え。また、全教職員が校内研修を「学校が抱える課題の解決に向かって、教職員が共同的・組織的に、授業等の教育実践を計画・実施・評価する営みである」といった共通認識をもちながら、協議会や研究授業に繰り返し臨むことが重要である。「自分が校内研究をすすめる一員」という当事者意識を前提にした研究が進められるようにしていきたい。その際には、授業研究を具体的な方策の主軸として置きながら、年間を通した計画を組織的に進めていく方法を考えていきたい。

#### (6) 道徳指導

新学習指導要領において、道徳教育の充実が重要である。5年前から行っている月曜日の朝に月1回のペースで行っているところUPタイムを次年度も続け、生徒に道徳的心情を高める取組を継続していききたい。また、こころUPタイムの時間にソーシャルスキルトレーニング、エンカウンター、アサーショントレーニングなどを取り入れ、生徒一人一人の自己肯定感の構築を図りたい。

#### (7) 保健・安全指導

保健・安全指導の重点は、自他の健康と安全を守ることにある。新型コロナウイルス感染症予防対策もその1つであり、そのために、自分に優しく、他人に優しくなれる心情を、道徳教育と共に育てていきたい。全学年で行っている薬物乱用防止教室、2年生で行うAED講座、3年生で行う思春期講座など、次年度も生徒にとって将来必要となるであろう学びを継続的に行っていききたい。

#### (8) 学力向上

単元等の途中で形成的評価などの工夫を行い、習熟に課題がみられる場合には、個別指導や習熟

度別指導を行い、「分かる・できる」まで関わるようにする。授業中、生徒の理解の状況を確認し、理解が進んでいない生徒にはT2や支援員を導入し、支援する。また、全国学力・学習状況調査の結果等から、つまづいた問題を再度解いたり、類似問題・関連問題に挑戦したりする機会を設け、定着を図る。さらに、定期テスト前のテスト週間では、計画表を作成させる中で目標を個別に設定させ、家庭学習で自主的に復習に取り組めるよう工夫する。授業開始に行う「黙想」は今後も続けていき、学習に対する心構え等、学習規律を確立していく。

#### (9) 授業づくり

1時間の授業の中で、体験的活動を行ったり、問題解決やグループ活動の時間を取り入れたりすることで、自主的に学習に取り組めるよう工夫する。そのような1時間の授業をデザインする上で大切なことは、まず単元目標の達成をめざした各時間のねらいを明確にすることである。それから、ねらいの実現に向けて指導内容に即した活動と、それに合った授業形態を組み立てていく。また、ICTの活用や新たな取組を教師間で広め、チームとしての強みを発揮していき、意欲的に授業改善に努める教師集団をめざしていく。

#### (10) 生徒活動

学校における生徒の生活の充実・発展や学校生活の改善・向上のためには、生徒の自発的、自治的意識の醸成が欠かせない。それには、学校生活上の諸問題から課題を見だし、その解決に向けて取り組む際に、生徒の自主性、自発性をできるだけ尊重し、生徒が自ら活動の計画を立て、それぞれの役割を分担し、協力し合って集団活動を進められるよう、教師が適切に指導することが大切である。

#### (11) 保護者（地域）との関係

P T A総会や授業参観、学校行事だけでなく気軽に保護者が来校できるよう配慮し、様々な教育活動を実際に見てもらおう。また、電話連絡や学年・学級通信などを活用して子どものよい点を報告し、日頃から保護者の意見や情報を得やすくする関係づくりに努める。学校と保護者が連携するには、保護者の理解を得、教師と保護者の信頼関係を築くことが重要である。そのためには、「子どもたちがよりよく育っていくために」という思いに基づく子どもへの接し方が大切であると考えられる。

#### (12) 地域との関係

地域あつての学校である。学校は改めてその意識を内向きから外向きにも視点を移していかなければならない。そのため、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）をより一層活用し、地域の中で育つ生徒の育成を意識して取り組んでいきたい。また、開かれた学校を目指し、通信、ホームページ等、様々な手段で教育活動の様子を発信していきたいと考える。

#### (13) 問題行動

問題行動対応の基本は、一つには「毅然とした指導」がある。問題行動を繰り返す生徒に対して、次への期待を込め、温情的な采配をふるうことも大切であるが、教師や生徒への危害、学校の安心安全に大きな問題としてその都度対応を余儀なくされる場合がある。集団の秩序を乱し、人に危害を加える行為については、対応のレベルを明確にし、保護者や生徒へ具体的に提示し、関係機関とも連携して厳正に対処する。

二つ目は生徒理解にもとづく対話である。生徒理解とは、生徒の置かれている状況を理解し、ありのままを受容する行為である。具体的には「分かってあげる」ことである。それは顕著な問題行動を繰り返す生徒ばかりでなく、それ以外の生徒に対しても同様の対応が求められる。生徒理解とは生徒を甘やかすことではなく、生徒個々に寄り添い、現状を理解させ、自分自身を振り返らせ、自分を律する心をもたせることであることを意識して指導に臨みたい。

#### (14) 学校図書

読書がもたらす学力の向上、落ち着いた生活態度を受け、毎朝、読書タイムを設け、文字離れが進む中学生に歯止めをかけると同時に、1時間目の授業を落ち着いて受けるための時間とした。また、図書支援員の協力により、利用しやすい図書室づくりを進めている。今後も本が好きな生徒の育成に力を注いでいきたい。

#### (15) ホームページ

保護者や地域の方々に対して、「今、学校が何をめざし、それを達成するためにどのような教育活動を展開しているのか」「子どもたちは、今、どのようなことをがんばっているのか」という具体的な取組をホームページを通して、知ってもらおう。また、学校行事等のイベントだけではなく、普段の授業の中で大切に取り組んでいることも、情報発信していきたい。

#### (16) 部活動

今後、部活動地域移行が進んでいく中、限られた時間で主体的に取り組むことができる魅力ある活動になるよう工夫していきたい。